

新しい発達支援としてのビジョントレーニング

対談

内藤 貴雄
(米国公認オブザーブメントリスト)

田上 康二
(七田チャイルドアカデミー師範)

今回は、七田チャイルドアカデミー師範として、全国の講師の指導のみならず、七田式幼児教育法の普及に尽力しておられる田上康二先生をゲストにお招きし、Dr内藤貴雄との対談が実現しました。

日本の幼児教育におけるイノベーターとして、そのユニークな教育法とともに「認めて褒めて愛して育てる」という人間学をベースとした理念のもと活動を推進する七田チャイルドアカデミーにおいて、そのグループ企業である「イプラスジム」のノウハウは「家庭取組」の一環として推奨されており、中でも「ビジョントレーニング」は子どもの発達に関わるトレーニングとして、より積極的な形でのコラボレーションを計画しておられます。今回は、そのような両者の立ち位置から自由闊達に語り合い「これからの脳力トレーニング」について、大きな可能性を予感できる貴重な機会となりました。

進行・編集：E-PLUS-α編集長 斎藤 義雄

今どきの「子ども」「親」「社会環境」

田上 現状は「集中できない」

とか「椅子にじっと座つていられない」というような子どもが増え、そしてその保護者は理由を今一つ判断しきれていない、というケースが増えているように感じます。

内藤 はい。

田上 それらのケースにおいては、「姿勢が悪い」「本を読むのが嫌い」などを、子どもは「発達・感覚統合が未成熟である」ケースがほとんどではないかと感じています。

内藤 なるほど。

考えておられるケースが多いように思います。ただ実際に

は「発達・感覚統合が未成熟である」ケースがほとんどでないかと感じています。



田上 康二 (たのうえ こうじ)
イプラス脳力開拓トレーニング総合理事
株式会社七田チャイルドアカデミー専務取締役

■プロフィール

教育学博士。七田真氏(故人)が40年にわたる幼児教育の理論とその実践・教育実績をもとに開発した「七田式教育」。その普及・拡大を行なう株式会社七田チャイルドアカデミーで師範を務める。'88年広島西地区本部教室責任者として講師や教室運営を経験した後、'93年には本社教務部のチーフに就任。指導プログラム・教材の作成、各種講座や研修講座を構築する。現在は日本全国に450教室を運営する七田チャイルドアカデミーの講師指導や教育プログラム構築ならびに全国での講習活動など七田式教育の普及に尽力している。著書に「わくわく子育て術「ハハハ番です!」(エコ出版)がある。

七田チャイルドアカデミー
オフィシャルWEB

<http://www.shichida.ne.jp/>

田上

昔とは子どもや保護者を取り巻く生活環境が、かなり変化してきている中で起こっている現象も含め、そのあ

り変化してきている中で起こりたいだければと思います。

内藤 大人から見ても最近の

ゲームは非常によくできいて面白いと思うし、子どもが夢中になるのは当たり前。あの楽しみを知った子どもからいっては社会『大人だし、少し考え方があるよう

田上

昔とは子どもや保護者を取り巻く生活環境が、かなり変化してきている中で起こっている現象も含め、そのあ

り変化してきている中で起こりたいだければと思います。

内藤 はい。

田上

昔のオヤジは恐かった?(笑)聞いてくれたりする人がいた

内藤

田上 子どもは発育時にたくさん動きを通じてたくさん

田上 なるほど。

内藤 その動きを通してたくさんのことを学んでいきます。し

かし現代の子どもは、からだを使って遊ぶ機会が少ない、場所が少ない。遊ぶ相手が少ない。それからオモチャが変わった。デジタルなゲームで、ただひたすらボタンを押すだけで楽しめるような物が増えていますよね。

田上 そうですね。

内藤 なるほど。

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

田上

内藤 田上 康二

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

田上

内藤 田上 康二

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

田上

内藤 田上 康二

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

田上

内藤 田上 康二

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

田上 田上 康二

内藤 田上 康二

ゲームは非常によくできいて面白いと思うし、子どもが夢中になるのは当たり前。あの楽しみを知った子どもからいっては社会『大人だし、少し考え方があるよう

田上 そうですね。

内藤 ビジョンの話しに戻し

れつき完璧な身体であれ目で

あれ、そういうつたいわば、道

具、を薪から掠かて生まれ
てきても、それをどう使つた

らしいのか、さまざまな体験を通じて学んでいかなければ

「視力」以外の重要な「見る力」を身につける源にもなります。「体を動かす機会が少ない」ということは優れたビジョンを育てる上でマイナスです。

子どもが体を動かすこと (粗大運動)の大切さ

内藤 「動きの下手な子」とか「ぎこちない子」が

が「まことない子」子どもが本質的に不器用なわけではなくて、経験できていない、自分のからだの各パートのあり方をまだ知らないので動かせていないというケースが多いと思います。

田上 例えは産まれたばかりの赤ちゃんから想定したときにはどうでしょうか?

体を動かすさまざまな体験が
重要な「見る力」を身につける
源になる



内藤

出来れば一人じやなく

とも子どもにとつ

里
すつ
転

内藤 人間一度立ち上がった
ら80年は二本足で歩くわけだ

あつてもいいし、無理に二本足で早く歩かせようとするのも良くないと言います。

つきの大事な関係を最初に学ぶ動きだというふうに言われてるんですね。だから、まずはハイハイが一番重要だと感

**体を動かすさ
重要な「見る力」
源になる**

とにかくやつて、その体験が子どものからだの構成図作りでどうも重要なことです。たとえばS C A 教室に田上 おいて、初めて子育てに関わるお母様はどうしたらいのかわからないケースが多くなっています。「過去に自分達はそういう教育法や事実を情報

田上 幼児期の過ごし方による複数の子どもがいて、みんなで自然に取り組めるよう環境作りをすることも大事だと思います。たとえば遊びとしても、体を動かし、触れ合って具体的には床の上でゴロゴロ横向きに転がったりホーク前進で競争してみたりとか、幼稚園になつた時点での

遊びで学ぶ

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

田上 たとえばS C A 教室に
おいて、初めて子育てに関わ
るお母様はどうしたらいの
かわからないケースが多くみ
られ、講師に相談して来られ
たりやつて、その体験が子
どものからだの構成図作りで
凄く重要だというわけです。

て複数の子どもがいて、みんなで自然に取り組めるよう環境作りをすることも大事だと思います。たとえば遊びとしても、体を動かし、触れ合って具体的には床の上でゴロゴロ横向きに転がったり木々前進で競争してみたりとか

田上 家でお父さんができる
こともたくさんありますね！
内藤 その通りです。

田上 たとえばSCA教室に
おいて、初めて子育てに関わる
お母様はどうしたらいの
かわからないケースが多くみ
られます。「過去に自分達はそ
ういう教育法や事実を情報とし
て全く知らないから何をした
らいいかわからない」とい
う状況の中で得た情報、例え
ば「うつ伏せ寝が駄目」だと
書かれていたら極端に「う
伏せ自体が悪い。」となつち
ゃう方も非常に多い。そのよ
うな流れでしようか、最近ハ
イハイをしない子どもが増え
てきたりするわけです。

て複数の子どもがいて、みんなで自然に取り組めるよう環境作りをすることも大事だと思います。たとえば遊びとしても、体を動かし、触れ合って具体的には床の上でゴロゴロ横向きに転がったりホコリ前進で競争してみたりとか、田上 幼児期の過ごし方について幼稚園になつた時点での子ども達の身のこなしや脳の使い方の素地も当然違つてくると感じます。

内藤 そうです。例えば子どもは自分のからだの大きさで最初から解つてているわけではなく、動きを通じて徐々に学んでいくんですよ。からだで大きさとか幅とか。自分のところに色々なものが触れるところによってその触覚や圧力から自分はどのくらいの大きさでどんな長さで、どう動いた時にどうなるか…っていう「知恵」を得ていくことができるんです。

田上 全くそうだと思います。

内藤 そういう自分のからだの構成図みたいなものを「ンタルボディマップ」と呼ぶのですが、それを具体的に動きを通じて体感していくことは大事でしょうね。大人が見て「こんなのが当たり前に出来るだろう」と思うようなことを

あれば良い体験になる。だからそんなに難しい事はしなくとも、色々な種類の動きをやらせることは大事だと思います。

田上 家でお父さんができることもたくさんありますね！

内藤 その通りです。

あれば良い体験になる。だからそんなに難しい事はしなくとも、色々な種類の動きをやらせるることは大事だと思います。

田上 家でお父さんができることもたくさんありますね！

内藤 その通りです。

び方」を学ぶ、おかげの取り合いで人間関係を学ぶ(笑)。

内藤

ほんとそう。だからよく僕は言うんですけど、やつぱり小さいうちは結構野性的に育てたほうが子どもの発達にはきっといい。多少の擦りキズとか怪我をするかもしれないんですけど、じつと家の中でゲームしてるより、それによつて学ぶ事は圧倒的に多い。

田上

まったくです。

内藤

今は寒いときは暖房、

暑いときはクーラー、といつた快適環境で育つてきている。それはもちろん幸せなことではあるんですけども。昔はけつこう野性的な子どもが多かつた。例えば暑いときは汗まみれで、寒いときは鼻をづるする垂らして、汚い子どもも結構いましたね(笑)。ひょっとしたら雑菌にも強い子どもだったのかもしれない。

田上

(笑)いましたね、みんなそうでしたもんね。東京女子学院の前理事長の酒井校長は「人間も動物の1種です。10歳(小学校の低学年)までは、とにかく体を使って遊び、走り回ればいい。勉強は10歳(小学校の高学年)になつてからやつても充分間に合つ」ということを、いつもおっしゃつておられましたが、これはある意味、SCA教室やイ

プラスジム(目の学校)が指しているところに非常に近づいていく。

内藤

と思いますね。さまざま実験が基礎になって、その上に色んな物が乗つかるわけだけでも現代は「勉強ができる=良い子である」というような頭でつかちな評価に偏つてゐるような気がします。も

ちろん勉強ができるのは素晴らしいのですが、トータルで見て人間としてきちんととした形で成長していくかどうかは、成績だけでは判断できな

いはずです。

幼児期の過ごし方によつてその後の身のこなしや脳の使い方の素地も違つてくる



田上 そういう意味で体を大きく動かし粗大運動から積み上げていく。

内藤 そうそう。そういった粗大運動にしつかり時間を費やした後、漢字を書いたりなどの指先の細やかな動きの微細運動や、物事の概念化ができるように徐々にシフトしていく順序をとれるといいのにな。

田上 そういう傾向にあるようにも思います。

内藤 例えば、夕食の配膳のお手伝いで、お皿や箸やコップをいくつ配ればいいの?などの経験から、ある程度算数の基礎概念が育ちます。台所で道具を使ったお手伝いは、立派な物理の勉強になります。

また母親と買い物に同行してお店の人とのやりとりを聞きながら、社会性を育てることもできる。

田上 そうですね。なので「この子は勉強が忙しいから」というように別扱いしないで、ある一定の時間は家事を手伝わせる、などが逆に学校の勉強では得られない学びにつながるんでしょうね。

七田式の本当の凄さ

田上 田上先生に質問ですが、「今のお母さんは子どもにあまりお手伝いをさせない方が多い」ということを聞いたことがあります。ところが、そういうことはないですか?

田上 もちろん一概には言えませんが、どちらかといふとお母さんがやつてしまふケースが増えてると思います。

内藤 家のお手伝いは凄くいい教育だと思いますよね。

田上 料理や片付けのお手伝いを子どもに伝える際に「遊びの感覚」を伝えることも重要なことです。子どもはお手伝いをお遊びと思ったら、自分から進んでしたがるようになります。そういうことも講演会などではお伝えしたりしています。

田上 なるほど。

田上 ちゃんと理解させてあげれば楽しんでやつてくれる。

内藤 実体験が大事だからバーチャルではなく、教材でもやっぱり水に触つたりとか土

田上 明確に「ビジュントレーニング」ということはお伺いしませんでしたが、結果としてそこに近いプログラムは多く提示していただきました。なのでノウハウはもちろんある程度ご存じだつたと思いま

に触つたりとか、場合によつては少し尖つたりして危険なものを持つたりするという体験も実は凄く大事ですよね。

田上 そういつたところから感性も育つわけですからね。でもやっぱりうちの中で過ごす時間が多いので難しいところではあります。



す。さまざまなかわい
て「目の異常ではなくて、単
に使い方を学んでいないだけ」
という子どもは本当に多いで

田上 (笑)表現も上手く出来ないし、言葉も解らないので致し方ない。でもこの時期に一番肝心なところが育つ。つ

でビジョントレーニングを伝える指導者も継続的な学びが必要なんですが、まだまだ十

S C A 教室が、より一層機能
しやすい環境を創っていきた
いですね。

セ田チャイルドアカデミー」とイープラスジムの存在意義

す。さまざまなおこゑで、「目の異常ではなくて、單に使い方を学んでいないだけ」という子どもは本当に多いです。運動せずに机に向かい続けると肩凝りになると、一緒に目も動かさないと凝る=動きや機能が悪くなるのは当然です。特に子どものうちに目や体をさまざまな場面で動かす感覚を学ぶことは本当に大事です。

田上 (笑)表現も上手く出来ないし、言葉も解らないので致し方ない。でもこの時期に一番肝心なところが育つ。つまり感覚統合運動は外せないなどということをつくづく感じます。結果そこが上手く育つとその後の幼稚園時代それから小学校時代から含めて、健康に成長し無理なく伸び、能力發揮もしやすくなる。本日は内藤先生とお話しして確信

でビジョントレーニングを伝える指導者も継続的な学びが必要なんですが、まだまだ状況が整備されていないのが現状です。

田上 そうですね。学習塾に行かれるることは決して悪いことではないんですが、そこだけではなく人間としてトータルな能力を身に着けるために、は、やはりこれから時代、脳のトレーニングは不可欠だと思います。

内藤 ぜひがんばりましょ



内藤 いるわけですか。
田上 なるほど。

田上 そうですね。
内藤 でも全国のS C A 教室で多くの子どもたちが部分的ではあっても、目の動かし方や正しい発達のための取り組みを学んだりできるのは本当に素晴らしいことだと思いま

内藤 そうですね(笑)。

り言つて0歳から1歳の子どの
もの脳の状態が大事というの
は理屈では分かっていても、一
般的には「あまりよくわから
ん期間」というのが正直なと
こではないでしょうか(笑)?

内藤 作業療法士の領域と医學療法士の領域も含まれるの
「単なる目の訓練」ではない
事をどうお伝えするかが大事
でしょうね。

田上 例えれば「速読」や「直観像」というような取組などにおいては視幅が広くないと結果につながりにくいので「目は出来るだけ柔軟に動かして、広い視野で見よう」ということを「眼筋トレーニング」として取り組んでいますね。もちろん専門的に実施しているというよりは一つのエクササイズとして取り入れて

内藤 子どもはまず自分を知る上では動かなきやいけないです。目もやはり同じです。特に今はゲームや携帯電話など、ある意味多くの子どもの興味の中心にあるコンテンツは広い視野を使う必要があるません。なので「どう目や体を使うか?」を学べるチャンスが少なくなっているのが現状です。

七田チャイルドアカデミーとイマジンの存在意義

田上 私はS C A 教室でいろんな赤ちゃんや子どもを見てきましたが、やはり0歳から1歳の間に受け取る感覚が、その後色々なことを伸ばしていく中で、かなりの影響を及ぼすと考えています。はつきり

田上 そうですね。通常「ビジョントレーニング」と聞いていただけると嬉しいです。

内藤 はい。
すが、どちらかといふと感覚的に「これから時代の子どもは目をトレーニングしたほうがいい」と捉えておられたような気がします。

性は充分にあります。現状は SCA 教室とイプラスジムの目の学校で、ある程度、相互補完的に小学生のビジョントレーニングでフォローしてます
ですが。

田上 子どもが産まれた時から取り組むことのできる、正しい発達のための目や体の使い方を、S C Aに通うお母さんにもつともっとアドバイスができる環境を充実させたい

内藤 この対談は主にイプラ
スの関係者の方が読まれるは
ずなんんですけど、SCA教室
に通うお母さん方にも読んで
いただき、ちょっとだけでも
しました。

山上（笑）表現も上手く出来ないし、言葉も解らないので致し方ない。でもこの時期に一番肝心なところが育つ。つまり感覚統合運動は外せないなどということをつくづく感じます。結果そこが上手く育つとその後の幼稚園時代それから小学校時代から含めて、健康に成長し無理なく伸び、能力發揮もしやすくなる。本日は内藤先生とお話しして確信

でビジョントレーニングを伝える指導者も継続的な学びが必要なんですが、まだまだ状況が整備されていないのが現状です。

田上 そうですね。学習塾に行かれるることは決して悪いことではないんですが、そこだけではなく人間としてトータルな能力を身に着けるために、は、やはりこれから時代、脳のトレーニングは不可欠だと思います。

内藤 ぜひがんばりましょ



志賀博士に聞きたい!!

現在の脳科学のあり方と 今後の可能性

第4回

志賀 一雅

インタビュアー：モリスン大日

志賀博士に聞きたい!!

現在の脳科学のあり方と今後の可能性

このコーナーは、最先端の脳科学のあり方を問う以下の2冊の本をテキストに、志賀博士にインタビューを行った内容を掲載します。

「血流が増えると機能が向上する？」

～光トポグラフィで見た時に血流が増えると機能が向上するという内容の仮説について

「脳科学の壁」の著者も疑問を出されていますが…。

志賀 そうでしょうね、これも川島先生が言つたか言わなければ定かではないけれど、学会で論じる時はそんなない加減な言い方では通用しないから、たぶん関連する企業やメディアが都合のいいように

利用したのだと思います。実際に血流が増えると機能が向上するという内容の仮説について

「脳科学の壁」の著者も疑問を出されていますが…。

活動している、機能が向上しなのではなくて活動が活発になつていて」という事です。

活動が活発になると機能が上するかといったらそれは又別の話です。「とりあえず活動しているから機能が向上している」という表現だけが独

「血流が増えると機能が向上する？」

について

「脳科学の壁」106Pより

「脳科学の壁」128Pより

志賀 そうですね、このお話をともリンクするところからおっしゃっていたのです。でも、「学習すると血流が増える」という内容の仮説について

志賀 それも仮説ではあります。仮説を裏付ける現象がある」とこのテキストで紹介されていました。

活動している、機能が向上しなのではなくて活動が活発になつていて」という事です。

志賀 そうですね。もう少しわかりやすく言うとクイズ番組などでチャンピオンになるような人は、まだ問題の途中なのにパッと答えたりされます

志賀 そうですね。たとえば学習活動が活発になると機能が上するかといったらそれは又別の話です。「とりあえず活動しているから機能が向上している」という表現だけが独

り歩きをして批判につながっているのだと思います。

このコーナーは、最先端の脳科学のあり方を問う以下の2冊の本をテキストに、志賀博士にインタビューを行った内容を掲載します。



暴走する脳科学
～哲学・倫理学からの批判的検討～
(河野哲也著・光文社新書)



「脳科学」の壁
～脳機能イメージングで何が分かったのか～
(柳原洋一著・講談社プラスアルファ新書)

現在「脳科学ブーム」ということで、さまざまな脳に関する情報が飛び交っていますが、そのリテラシーも含めて「どこまでが仮説で、どこからが実証を得ているのか？」「実際に脳科学とは今後どのような形で、我々が活用できるのか？」ということを、志賀博士に質問し、お答えいただきました。EBAの活動においても避けては通れない深いテーマに志賀博士から、どのような答えをお伺いできるのでしょうか？「脳力開発に関わる方」必見です！シリーズでお届けします。

り歩きをして批判につながっているのだと思います。

今回のテキストである書籍にも、記述がございますが、

「前頭葉機能が低下している認知症の多数の老人に音読と単純計算を毎日続けていると機能の向上がみられた」というデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と分析があり、誰もが納得できることの話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実験による仮説で「機能が向上する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

単純計算を毎日続けると

機能の向上がみられた」とい

うデータがあるようです。

志賀 はつきりとした実験と

分析があり、誰もが納得でき

る状況の話ならいいんですけど、実際は、そんな事なかな

い点もあるはあるのでしょ

うが、川島先生としても正直なところ迷惑な話でしょうね。

でもおかげで得た恩恵もあつたでしょうし結果として川島先生にとっては良かったのか

飛躍的に高まつたという、い

かできないから、不確かな実

験による仮説で「機能が向上

する」という表現になつてしまつたんだと思います。ただそれにより世間での認知度が

「前頭葉機能が低下している

認知症の多く

の老人に音読と

「ありがとう」を笑顔に変えて — 本気を伝える感動教育の現場 —



イプラストレーニングをベースとした授業が専門学校に導入されて、10年目を迎える2012年。成田国際空港や外資系有名ホテルを擁する千葉県において、唯一の観光総合専門学校である国際トラベル＆ホテル専門学校の授業も、おかげさまで3年目を迎えます。就職難という社会状況を反映して、即戦力教育を重視する専門学校に新たな期待が寄せられる当今。希望と不安の入り混じる新年度の始まりに、改めて学校授業を見つめ直す機会を得ようと、就職・教務室の室長である千葉山先生にお話を伺いました。

レポート イプラス脳力開発トレーニング協会 住友 大我



千葉 山 (ちば たかし)
国際トラベル&ホテル専門学校 教務・就職室 室長

1974年、千葉県生まれ。亜細亜大学経済学部卒業。
「山」と書いて「たかし」と読む珍しい名前は、元力士のお父様による命名。ご自身は、相撲ではなくバスケットボール経験者。ITHではバスケットボール部の顧問を務める。スポーツで鍛えた体力と物怖じしない性格を生かして、旅行会社勤務時代には飛び込み営業に精を出す。プライベートのバンド活動ではボーカルを担当するなど、クールな見た目と熱いハートを併せ持つ。余談ではあるが、筆者と同様、汗をかきやすい体质の持ち主。この体质について、他人から「新陳代謝がいい」「健康な証拠」と言われることもあるが、場面を選ばず溢れる汗は、精神に悪い…と私は思う。



学校法人 中村学園
国際トラベル&ホテル専門学校 (ITH)

〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12
TEL:0120-256-118 / FAX:043-248-8996
E-MAIL:ith@nakamura.ac.jp

2012年に創立26年目を迎える千葉県内唯一の観光総合専門学校。地域密着型で観光業界への就職に強い。また、現役も含めた業界経験者による個別指導に定評がある。2013年度から、校名を「国際トラベル・ホテル・ブライタル専門学校 (ITHB)」に変更して新たなスタートを切る。

創立65周年を迎える中村学園グループは、ITHの他に、専門学校ちば愛犬動物学園(2013年度～ちば愛犬動物フランワード学園)、アイエスティック美容専門学校を持つ。2014年春には、3校共有の9階建て新校舎が完成予定。

2000年という区切りの年にITHに入社された千葉先生ですが、大学卒業後、最初に就いた仕事は、大手旅行会社の営業職でした。外に出て人と会うのが好きといいう性格から、その当時は、非常に充実した日々を送っていたそうです。

ところが、人生に不測の事態は付き物のようで、良く言えば自分を見つめ直す機会であり、悪く言えば生きる意味すら変えかねない「仕事上有る事情」(ここには書きませんが至極理不尽な事情)に巻き込まれる形で、自主退職の道を選ぶこととなります。

それから半年ほど、失意(?)と無職の期間を過ごした後、大学時代の留学経験(オレゴン州)を生かして、主に学生を対象とした留学斡旋会社に勤務します。その会社を(普通に)退社後、仕事の関係で縁のあったITHの採用面接を受け、見事に合格して現在に至ります。

千葉県という地域性を反映して、ほのぼのとした雰囲気の学生(千葉先生評です。いきなり言い訳がましいですけど…)が多く通う、国際トラベル＆ホテル専門学校(以下ITH)。その空気感を象徴するように、穏やかな佇まいの千葉先生ですが、教務・就職室の室長という要職から、就職に向けた教育内容の充実化に向け、日々精励されています。

MWT推進役という任をお預かりのよう、ご自身の授業でも、段階的リラクゼーション法(手のひらの緊張とリラックス)の実施

そして現在は、ITHの講座を受けられたのは、2009年11月。私が担当した2回目の2級トレーニング(以下MWT)講座を受けられた。翌年からスタートする授業の前に、他の先生方を含めて3名でご参加いただいたことを思い出します。

今の仕事には、もちろん遣り甲斐を感じていらっしゃいます(当然です!)が、失業期間の心境について、もう少し踏み込んで尋ねると、意外にも不安な気持ちは、

あまりなかつたようなのです。むしろ、「一生懸命、目の前のこと立ち向かえば、そのうちいいことがある」とか「仕事を通じて人の役に立ちたい」という思いの方が、より強く記憶に残っていることがあります。

元来がプラス思考で、継続力と行動力を大切にする千葉先生らしい逸話だと思います。

その一方で、小学生時代に父親を亡くしたこともあります。小さな頃からずっと走り続けて来た自分に対しても、この機会に少し休憩しようとという思いがあつたこと、そして、そう思う自分を認め、後押ししてくれた家族の存在があつたことをお話し下さいました。

さて、先ほど「ほのぼの」と表現した学生ですが、別の表現を使えば、争いを好まない「平和主義」的な面を持つとも言えます。

授業を担当する私も、素直で人当たりのよい印象を受けており、そうした気風に惹かれる学生が多く入学していることでしょう。

* ホスピタリティとは?
日本語では「心からのものでなし」と訳される。狭義から広義まで、かなり幅のある表現だが、大まかな意味は、相手の表面的な要求や要望を読み取り、それに応えることに止まらず、想像力を働かせて、表面に現れない思いを汲み取り、結果として、相手に驚きや感動を与える行為や精神のこと。

IT H 教育の基本理念に対して、相応しい資質を持つ学生が、多く在学することを窺わせます。

その一方で、こうした優しさとも言える面が、面接などの重要な場面における自己主張の弱さや周

団への過度な意識を生み、結果的に日頃の成果を發揮できないことが、これまで多く見られたようです。

ITH の卒業生は、離職率が低いことで知られています。その理由は、企業実習や授業の一環としての企業見学会、また、企業の方を招いた特別授業など、学校とう閉じた空間を、社会という開かれた空間へ繋げる実践教育に力を入れているからです。そうした豊富な実験を通じて、知識と意識の両面から、社会人になるための準備が整えられた結果と言えるでしょう。

つまり、就職後の対策は、これまで十分効果を發揮してきたわけです。そこで、面接を始めとした、就職前の対策をより一層充実させる目的から——緊張する場面でも、落ち着いて自主的に考えながら、臨機応変に行動する逞しさを身に付けるために——私達の授業(授業名:脳力開発)は導入されました。



スポーツ大会!!



「房総半島最南端の地」の石碑(左後方は野島崎灯台)



学生と旅行プランの実地調査中(後方は館山城)

(図1)を見ると分かるように、授業の成果として、受講学生の約半数(48名)がメンタル的な内容(集中力+リラックス能力)を挙げてくれました。

ただし、注意点を一つ挙げてお

以前、小誌でも紹介したため、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、授業は、MWTに加え、ビジョントレーニングとブレイン

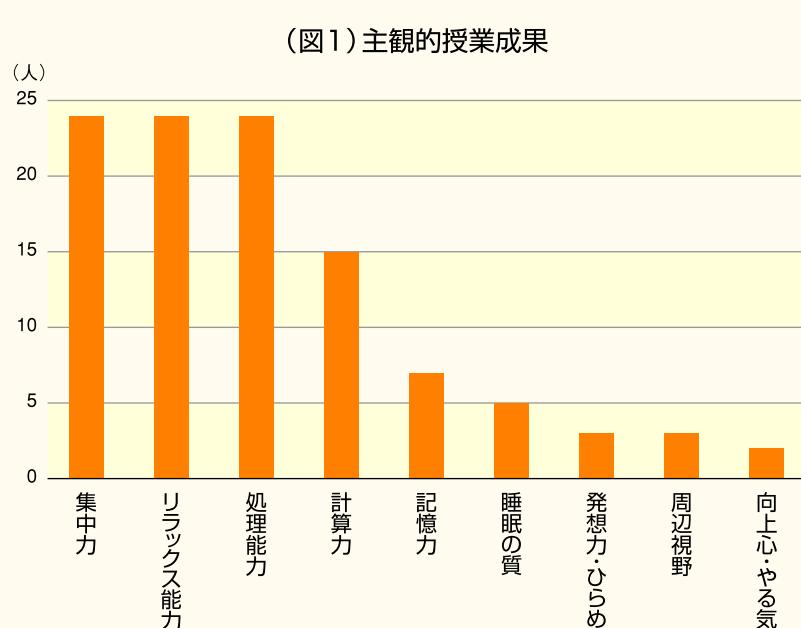
トレーニングを合わせて構成しています。したがって、計算力や記憶力などの項目も見られます。しかし、そのような能力を発揮するためにも、メンタル面は大きく影響するはず

ます。また、計算力や記憶力などの項目も見られます。しかし、そのような能力を発揮するためにも、メンタル面は大きく影響するはず

です。
以前、小誌でも紹介したため、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、授業は、MWTに加え、ビジョントレーニングとブレイン

トレーニングを合わせて構成しています。したがって、計算力や記憶力などの項目も見られます。しかし、そのような能力を発揮するためにも、メンタル面は大きく影響するはず

です。
ただし、注意点を一つ挙げてお



「授業を受けて感じられる成果はありますか?」という質問に対する回答を示す棒グラフです。横軸には「集中力」「リラックス能力」「処理能力」「計算力」「記憶力」「睡眠の質」「周辺視野」「発想力・ひらめき」「向上心・やる気」があります。縦軸は「人」で、0から25までの目盛りがあります。各項目について、約48名の学生が該当するか該当しないかを回答しています。

なお、睡眠の質とは「ぐっすり眠れる」「すっきり目覚められる」など、2012年1月アンケート実施。

(図2) 比較優位の理論

	Aさん	Bさん	
1時間に釣れる魚の数	6匹	1匹	AさんはBさんと比べて魚も苅も生産能力が高い
1時間に採れる苅の数	3個	2個	
魚と苅が同数になるよう3時間を配分			総数
魚の生産数(消費数)	6匹(1h)	2匹(2h)	8匹
苅の生産数(消費数)	6個(2h)	2個(1h)	8個
魚1匹(苅1個)を増やすために減らさざるを得ない苅(魚)の数 = 機会費用			
魚1匹	苅0.5個	苅2個	Aさんは魚が得意
苅1個	魚2匹	魚0.5匹	Bさんは苅が得意
得意な方に重点化			総数
魚の生産数	10匹(1h40m)	0匹(0h)	10匹
苅の生産数	4個(1h20m)	6個(3h)	10個
魚1匹に対して苅1個の比で交換			
魚の消費数	7匹	3匹	重点化と交換により消費数が増加
苅の消費数	7個	3個	

ヨラム・パウマン著：この世で一番おもしろいミクロ経済学 — 誰もが「合理的な人間」になれるかもしれない 16 講
(ダイヤモンド社) の記述を参考にして筆者が作成

1週間) が欠かせません。このことは、ぜひ理解して欲しいと思います。

最後に、経済学部出身の千葉先生にちなみ、少しだけ経済理論を用いた話をしてみましょう。(図2) を参照しながら話を進めます(ややこしい話が苦手という方は、一気

に次のブロックに進んで下さい)。仮に両者とも魚と苅が同数になると生産すると、総数は魚8匹と苅8個です。

ここで、魚1匹(苅1個)を増やすために、減らさざるを得ない苅(魚)の数を比べると、Aさんは魚を釣る方が得意(魚を増やすために減らす苅が少ない) = 機会費用

用が小さい) であり、Bさんは苅を採る方が得意であることが分かります。

この結果をもとに、お互いの時間配分を得意な作業に重点化すると、総数は魚10匹と苅10個に増えます。その上で、魚1匹に対しても苅1個の比で交換すれば、重点化及び交換前と比べて、両者ともに

魚と苅の消費量が増えます。

比較優位の理論が教えることは、Aさんに対するBさんのように、

他人と比較して、仮に全ての面で能力が劣るとしても(そんなことは現実には有り得ませんけど)、相対的に得意な分野に注力すれば、全体の利益にも仮想のAさんにも貢献できるということです。

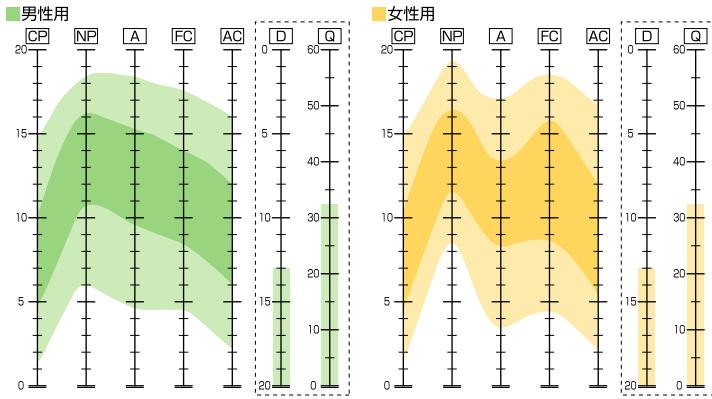
つまり、大切なのは、自分と他人を比較して疑心暗鬼を生ずることではなく、自分の強みを理解して、その生かし方を考えることであり、教育の役割もそこにあると言えるのではないかでしょうか。

学校生活は、近い未来に終りが来ることを前提とした特殊な時間です。だからこそ、人生における他の何時とも比較不能な、特別な意味を持つのだと思います。そうした限りある時間の中で、具体的な到達点を見据えながら自己と向き合う経験は、何物にも代えがたい財産となることでしょう。未来は自ら選ぶものと言われますが、その未来は一人で選ぶものでも、一人で歩むものでもありません。多くの出会いを経験しながら、新たな世界へ挑む力を見つけられるように、そして、未来へ進む逞しさを身に付けられるように、千葉先生から頂いた話も参考にしながら、私なりの諦めない気持ちを伝えようと思います。

おまけ

最後まで読み続けてくれた学生の皆様へ(もしいらつしゃれば)。周囲の大人に色々と質問してみましょう。そんなの人によると言われば否定はしませんけど、若い人から頼りにされて、嫌な気分になる大人(特に先生)は少ないと思います。大人は利用するもの。きちんと質問すれば、思つた以上の答えを返してくれます。





男性と女性で色分けの形が違うのは統計結果が異なるため。濃い色の領域は心身ともに健康な日本人の約50%、薄い色の領域まで含めると約90%が該当する。白い領域は統計的に稀なことを意味し(上下約5%ずつ)、考え方や行動が標準から外れるため、その項目がストレス要因となる。

職業別エゴグラム

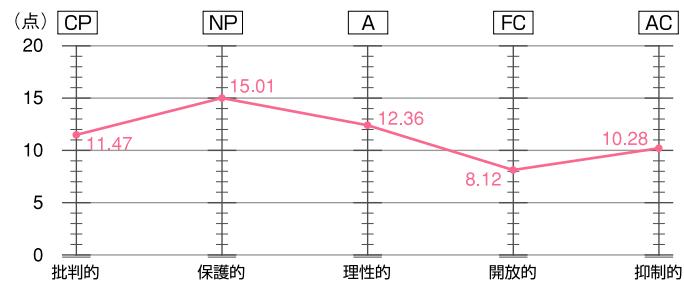
— 小中学校の教頭先生 —

職種や立場によるエゴグラムの特徴は如何に？そんな疑問から生まれたコーナー（実際には単なる思い付き）です。今回は、小中学校の教頭先生を取り上げます。結果は以下をご覧いただきたいのですが、仕事が人を作るのか？はたまた、人が仕事を作るのか？いずれにしても、人それぞれのご苦労が垣間見えるようです…。

■ 平均値 (Q ≥ 32 を除く)

男女混合で 38 名(男性 35 名 / 女性 3 名)

FC > AC 14 名（約 37%）、FC < AC 22 名（約 58%）
という結果から、本音より建前という抑圧的なタイプ
が多い。中央値と最頻値は以下の表を参照。



	CP	NP	A	FC	AC
中央値	12	15	13	8	10
最頻値	12 (8名)	14 と 15 (5名)	14 (5名)	8 (6名)	6 と 10 (4名)

■ 上下 5% の人数 (Q ≥ 32 を含む)

男女混合で 45 名(男性 42 名 / 女性 3 名)

	CP	NP	A	FC	AC
上 5%	6 名 (13.3%)	6 名 (13.3%)	1 名 (2.2%)	0 名	6 名 (13.3%)
下 5%	0 名	0 名	0 名	5 名 (11.1%)	3 名 (6.7%)

上下 5%（白い領域）は、統計的に珍しいことを表す。つまり、考え方や行動が統計上の標準から外れるため、ストレスを生みやすい。

CP や NP が高いことは、教育者という立場から理解できるが、FC が下に 5 名（約 11%）、AC が上に 6 名（約 13%）という結果からは、依存心が強く自主性に乏しい傾向が読み取れる。

■ Q = △ (判断できない) の個数

男女混合で 45 名(男性 42 名 / 女性 3 名)

専門学生の結果（平均 2.66 ~ 4.64 個 / 2012 年度に実施した 6 クラスの数値）と比べて明らかに多い。△は、曖昧で優柔不断な態度を意味する。また、本音を隠した抑圧的で防衛態度の強い傾向も推測される。ちなみに、Q ≥ 32 の場合は、分析精度が落ちることからエゴグラムを評価しない。中央値は 16 個。最頻値は 0 個、15 個、21 個の各 3 名。

